



2015 ~ 2016 年度  
R I テーマ

Be a gift to the world  
世界へのプレゼントになろう

世界へのプレゼントになろう

国際ロータリー会長

K. R. ラビンドラン (国籍・スリランカ)

2720 地区

## 別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分  
ところ 別府亀の井ホテル 〒874-0936 別府市中央町5-17  
TEL (0977) 22-3301 FAX 21-1232  
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F  
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000  
FAX (0977) 23-9019  
http://www.beppu4rc.jp/chuo/  
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	平野 教康	理事	西馬 良和	役員	会長	平野 教康	S A A	前田 哲矢
〃	梶原 和朗	〃	村津 忠久	副会長	梶原 和朗	直前会長	前田 哲矢	
〃	後藤 隆	〃	亀井 孝	幹事	佐々木久宜			
〃	森園 伸也			会計	衛藤 秀子			

VOL. 28 - 36  
2016年4月12日

## 第 1275 回 例 会

会報委員長 堀 由美

- ◆点 鐘 12:30
- ◆R S 手に手つないで
- ◆唱 歌 浜辺の歌
- ◆ゲ ス ト 伊豆富生氏 (べっふ鶴見岳一気登山実行委員長)

### 会長の時間 副会長 梶原 和朗

みなさんこんにちは副会長の梶原です。  
今日は急に会長が仕事の関係で遅れて来るそうなので、ピンチヒッターで副会長の時間を任せられました。  
地区大会も無事に終了し今季も残す所約3ヶ月となり、次年度に向けて少しずつ緊張が高まって来ています。  
今日の卓話はゲスト卓話なので楽しみにしています。

### 幹事報告 佐々木久宜

#### —母子の健康月間—

- 本日の卓話  
「一気登山と私」  
べっふ鶴見岳一気登山 実行委員長 伊豆 富生 氏
- 本日のゲスト  
伊豆 富生 氏 (べっふ鶴見岳一気登山 実行委員長)
- RI第2720地区野田三郎ガバナーよりガバナーノミニー・デジグネート決定のご報告がありました。  
○2018~2019年度ガバナーノミニー・デジグネート  
高山 泰四郎 氏 (大分1985RC)
- 第10回定例理事・役員会報告  
(平成28年4月5日(火)例会終了後~ 於:亀の井ホテル例会場 9名)

#### 審議事項

- 2015-2016年度皆勤・精勤お祝い記念品の件。※承認  
3・5・10・15・20・25年目~皆勤・精勤  
の会員の方は年度末に例会で表彰する。  
記念品は5,000円までクラブより補助

### ◆出席報告 委員長 衛藤 秀子

本日 の 出 席	会 員 総 数	28 名
	出 席 者	16 名
	事前メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	1 名
	出 席 免 除	3 名
出 席	欠 席 数	7 名
	出 席 率	66.67 %
前 々 回 の 訂 正	出 席 率	80 %
	事後メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	1 名
	出 席 免 除	2 名
	修 正 出 席 率	84 %

連 続 - 回  
通 算 750 回 100 %

#### ・メイクアップ

事前 佐々木 (別府北)  
事後 大島 (別府東)  
欠席 平野(英)、堀、森園、中尾、西林、  
島田、高宮  
理事会承認 森  
出席免除 溝部、河村、木村

鳴海淳郎会員 (9月25日 = 45年)  
高宮勝美会員 (8月4日 = 10年)  
亀井 孝会員 (10月4日 = 10年)  
堀 由美会員 (8月10日 = 5年)  
前田哲矢会員 (10月5日 = 5年)  
平野教康会員 (10月5日 = 5年)  
梶原和朗会員 (4月12日 = 5年)



梅津圭二会員 (11月3日 = 3年)

島田光男会員 (11月3日 = 3年)

西馬良和会員 (5月28日 = 3年)

2) 森 宗明会員 病氣加療の為、出席免除を  
4月末まで延長の件。※承認

3) 3月・4月例会予定の確認

4月5日 「会長エレクト研修セミナー報告」  
梶原和朗会長エレクト

12日 「一気登山と私」

鶴見岳一気登山 実行委員長 伊豆富生氏

19日 「会員卓話」村津忠久会員

26日 「 」

5月3日 「法定休日の為休会」

10日 「 」

17日 「 」

24日 「 」

31日 「 」

5. 4月10日(日) 10:00~ホルトホール大分に  
於いて「RI第2720地区2016-2017年度地区研  
修・協議会」が開催されました。

出席者：梶原和朗、梅津圭二、近藤賢司、後  
藤隆、前田哲矢、亀井孝 各会員

6. 委員会報告

鳴海淳郎初代会長より「別府市の将来につ  
いて考える」ロータリー探求No.538

7. お祝い

結婚記念日 後藤 隆 会員 (4月13日)

梶原和朗 会員 (4月17日)

結婚記念日 梶原和朗 会員 (4月17日)

※記念品をお渡し致します。

皆 勤 梶原和朗 会員 (4月12日 = 5年)

8. 例会変更のお知らせ

大分東RC 4月21日(木)の例会は夜の例会の  
為 同日18:30~丸福に時間・場  
所変更

大分中央RC 4月26日(火)

別府北RC 4月27日(水)

中津RC 4月27日(水)

湯布院RC 4月27日(水)

} の例会は、定款第  
6条第1節(C)に  
基づき休会

9. 次週例会の予定

「会員卓話」村津忠久会員

10. 本日の回覧

①「大分第3グループIM」出・欠席

② ガバナー月信No.10

11. 本日の配布

① 週報No.1274

②「伝統工芸・竹文化を考える市民フォー  
ム」パンフレット

③「別府市の将来について考える」ロータ  
リー探求No.538

スマイルボックス 委員長 近藤 賢司

○梶原会員

今日でロータリーに入会して5年になりまし  
た。7月からは会長です。みなさん優しくして  
いただけると信じてスマイル。

○鳴海会員

本日のゲスト、伊豆富生さんのご出席を心か  
ら歓迎し、8年にわたるおつきあいを記念して  
大いにスマイルしたいと思います。

○村津会員

「第29回べっお鶴見岳一気登山大会」は一昨  
日・日曜日に、晴天にも恵まれて、無事盛会裡  
に終わりました。

全てに感謝してスマイル。

○亀井会員

伊豆さんの実行委員長就任おめでとうございます。  
本日は、よろしくお祈りします。

○衛藤会員

桜も葉桜になりました。今日は花冷えでしょ  
うか。少し冷えますね。

伊豆様、ようこそお越し下さいました。一気  
登山、ご苦労様でした。どうぞごゆっくりなさ  
して下さいませ。

○後藤会員

結婚記念日だそうです。忘れないように車の  
ナンバーを413にしているのに忘れてました。  
ヨカッタ(笑)

○津末会員

本日のゲストの伊豆さん、観光課の時は大変  
お世話になりました。これからも宜しくお祈り  
致します。

○前田会員

桜散りはじめていますが今日寒いですが、にス  
マイル。

○西馬会員

伊豆さん、今日はようこそいらっしゃいまし  
た。名刺の持ち合わせがなく大変失礼を致しま  
した。べっお鶴見岳一気登山の卓話、楽しみに  
しています。

○土谷会員

伊豆様、ようこそ！別府中央ロータリーへ。  
今日の卓話楽しみにしています。





## 卓 話

## 「一気登山と私」

べっぷ鶴見岳一気登山実行委員長  
伊豆 富生氏

今日は別府中央ロータリークラブの例会にお呼び頂きましてありがとうございます。諸先輩の皆様方の前でお話をさせて頂くことは大変恐縮ですが、私にとっては大変光栄でもあります。私は学者でも専門官でもありません。このような席は余り慣れていませんので聞き苦しい点や大変失礼なことも多々あると思いますが、お許しを頂き話をさせていただきます。

私は伊豆富生と申します。7年前に市役所を定年退職し、第2の人生を大分県東部勤労者福祉サービスセンターと言う中小企業の福利厚生のお手伝いをする一般財団法人に勤め2年前、65歳で退職しました。今は保育所の評議委員や小学校のボランティアをしています。後は古いクラシックバイク修理やツーリングで各地を旅する趣味も持っています。もちろん一気登山が私のライフワークの最大なものであります。

今日の話をしていただく流れとしましてはアウトドアで通じるバイクツーリングの話から一気登山の話へと入っていきますので宜しくお願いいたします。お手元に行程地図があります。参考にしてください。

昨年7月27日から8月20日の24泊25日をバイクで秋田、青森など東北周遊ツーリングを決行しました。同級生の友人と二人でキャンプ、ホテル、宿坊などが宿です。好奇心旺盛な私のツーリング目的は、各地の文化、歴史、町づくり、人、グルメ等が主な目的になりますが、もうひとつ忘れてはならない目的は別府の観光宣伝の情報発信です。観光課や観光協会にお願いして観光パンフレットなど100部いただき、祭り会場での配布や立ち寄り先の食堂や居酒屋で横に座った方にパンフを差し上げるとほとんどの人が「別府温泉行った事がある」と話が弾みます。このようにコミュニケーションをとるアイテムとしても活用しています。皆様方の仕事やご家族で旅行に行くときにも1部でも2部でも観光パンフレットを持って行き、そこで交流をしてください。それが観光情報の発信につながりますし、いろんな方とも出会い地元の情報も聞くことができ、きっと面白い旅になると思います。

行程図をご覧ください。別府から大阪までフェリー、名古屋のトヨタ博物館を皮切りに馬籠、妻籠、駒ヶ岳登山などして諏訪湖のほとりでキャン



プをしながら走り、長野では善光寺の宿坊に泊まり、佐渡島、新潟、鶴岡の出羽三山（羽黒山、月山、湯殿山）に上り、酒田を經由して8月3日秋田に入りました。秋田では病魔や邪気をはらう竿灯祭りの初日でした。竿灯は皆様方ご存知のように高さ12mの竹の先端から三角形に46個の提灯を付け、重さが50kgの物を肩やオデコに乗せてバランスをとるというもので約270本の竿灯が立ち上がり提灯の数も1万個の光の妙技でした。

日本海側を北上してなまはげの男鹿半島、りんごの弘前、青函トンネルの出入り口竜飛岬では真夏にアジサイの花が満開でびっくりしました。陸奥湾フェリーで下北半島に渡り、本州最北端の大間でマグロを食べて恐山を経て青森に入ったのが8月6日のねぶた祭りの最終日の前夜で一番盛り上がった夜でした。

ここ青森市の対応ですが、我々は5月からホテル探しをしていたのですが、まったく取れず途方にくれていた時青森市のHPを見て驚きました。市の終末処理場の広大な敷地をバイク用と4輪用に貸し出し、それぞれ仮設トイレと仮設炊事場を設置した祭り期間中のみの無料サマーキャンプ場を開放していたので大変助かりました。そのようなことで秋田の竿灯祭りや青森のねぶた祭りにも参加でき積極的に別府観光パンフレットを配布しました。

青森を出て八甲田山、奥入瀬、十和田湖、岩手県に入り田沢湖、盛岡を経て東日本大震災の宮古、釜石の復興状況見聞きして心を痛め先に進みました。後は行程図のように遠野、平泉、仙台、山形、会津、日光、東京、富士山、浜松、伊勢神宮、高野山、奈良、京都、大阪からフェリーで別府に帰ってきました。総走行距離4441kmでした。中でも一番印象的だったのが信州や東北のキャンプ場に必ずあるのが【熊出没注意】の大きな看板でした。実際八幡平の側の後生掛温泉と言う山の湯治宿に泊まった時は、夜中に喉が渴いたので談話室に行き薄明かりの中でお茶を飲んでいると、アミ戸窓の外の小川で動物の息遣いが聞こえたのでそっと目を凝らして覗くと上流に向かって歩く熊に遭遇しました。その距離5m。私は息を殺して熊が遠ざかるのを見ていました。九州で味わうことのない山の経験でした。

さて、私と山についてですが、小学校の頃からボーイスカウトで社会奉仕や野外活動をしていた中に登山もあり、山の素晴らしさを教えられました。高校生の頃は友達とまた単独で久住山や祖母傾山などに行くのですが、小遣いをためてバスで行くかヒッチハイクで動いていました。

しかしヒッチハイクで乗せてもらった車で冬の九州横断道路を走っていて雪によりスリップしたときはさすがに恐怖を覚えました。そこでアルバイトをして中古のバイクを購入し、交通手段を確保して足を伸ばして山に行くようになりました。大学の山岳部にも入部していたのですが、物足らず社会人の山の会接点に所属して九州の山々を中心に登山活動をしていました。



特に由布・鶴見は我々のホームグラウンドで鶴見の谷には月に2回位のペースで通い、冬山正月合宿や夜間登山・紅葉や山菜てんぷら大会など四季折々にどっぷりと浸かっていました。時には登山道ではない尾根や谷を直線的に山頂を目指して登ってみたり岩場でロッククライミングをしたりして楽しんでいました。

そのような時、別府の海岸線から標高1375mの鶴見山山頂まで登る計画を立てている人がいてルート工作など協力してもらえないかと山の会に打診がありました。議論した結果全面的に応援をしていこうということになりました。

また、山の中の通信手段は当時携帯電話のない時代ですので自衛隊の無線かアマチュア無線しか在りませんでした。当時私は市役所のアマチュア無線クラブにも在籍してましたのでその協力要請があったときには既にその登山の概要は掴んでいましたので部員に説明し説得して参加するようになりました。

しかし無線部員は山岳会と違って登山経験も乏しく個人装備も出来ていない山に対して全くの素人集団でした。みんな応援し参加すると言ってくれているのですが、山中での安全確保のための通信を担うため、山中に朝8時位から夕方4時くらいまでじっと待機して参加者を見守る任務ですので部員たちの自分自身を守る事の訓練をしました。

どのようなことをしたかと言いますと、11月中旬にホームグラウンドであります紅葉真っ盛りの鶴見の谷に鍋釜を持ってハイキングに連れて行き、一番奥の船底の下で豚汁を作って振る舞うことをしました。その頃は林道も出来ていたので部員たちは右手に市街地から別府湾を望みルンルン気分です取りも軽く歩いていました。

目的地に着き豚汁を作るのですが、40人分ですのでなかなか時間が掛かります。今まで汗ばんでいた部員の体は谷を通り抜ける風によって体感温度がどんどん下がって「寒い、寒い」と声が出てきました。私はこれを狙ってました。市街地で説明の中で山は寒いですと説明をしても本当に判らないと思ったのでここで体感させたかったです。ツェルト（簡易テント）を張り暖かい豚汁を食べる頃には皆風除けや服装のことなどの話題となり自然と防寒は春でも冬用のものでないと通用しないし雨具は晴れていても必ず持って行くと言うように個人装備の話になっていました。

このように耐寒訓練をしながら山岳部と同様、個人装備の充実を図ってきました。そのことがあって確か8回大会だと思うのですが、4月だと言うのに鶴見山を吹雪が襲ったことや昨年の大会のように強風の為ロープウェイが運行を中止するのではないかと心配するようなことがあっても寒さや暴風に耐えた部員たちはしっかりした装備のおかげで大会をサポートすることが出来ました。

しかし、またここで問題が発生しました。アマチュア無線局を管理していたのが当時、熊本にありました郵政省の九州電波監理局、無線の使用に

ついて非常に厳しく、祭り・イベント・マラソン大会とかに使うことを禁じており、どのように応援体制を構築していくか悩まされたものでした。内部協議、そこで出た答えが山で遭難したものを救助する通信訓練「訓練訓練こちらはJ R 6 F W Fです。そちらの状況はどうですか」と言うように訓練を行うと言うことで63年の第1回大会から安全確保の為に協力していくことになりました。

このようなことで村津実行委員長とお会いしたのですが「別府の町に求心力の中心へソになるような城を作りたい、それが別府八湯すべての温泉の源脈、鶴見山であって脇目も振らず一同が一緒に見上げまよりのある町を作りたい」とのお話を聞き感銘を受け、登山・無線など協力に拍車がかかりました。

またお話を聞いていますと第1回大会を開催するまでの村津さんのご苦勞は想像を絶するものがあり、道のないところに道を造り、橋のない谷に橋を架ける等あらゆる方面に人脈を広げ、頭を下げたと聞いています。その結果、自衛隊や行政、自治会、近鉄別府ロープウェイをはじめとする幅広い組織、企業、団体、個人のボランティアが参加協力の下、一気登山大会を生み作り上げていることは間違いありません。

またそれを継続し育てて頂いているのが別府中央ロータリークラブの皆様方で平成2年11月4日から近畿大学の鈴木教授の指導を受け、水源涵養林のもみじの植樹を続けて土砂崩れから一気登山道を守って頂いていることや登山道導標の整備など大変感謝しています。聞くところによりますと今年も3月21日に植樹されこの26年間毎年500本約13000本もの苗木を植樹していただき、誠にありがとうございます。この様な支えや見守りがあり一気登山大会が継続できるものでございます。

また、この大会に欠かせないのが先ほども触れましたがボランティアの協力です。受付、道路案内、チェックポイントのチェッカー、山中での安全確保、無線による連絡、救急隊、看護師の待機、捻挫に備える整体師、ゴールタイムのチェック、参加賞の配布など数え上げたら多種多様あり、今では200人を超す人々がこの一気登山を支えてくれています。

一昨日も第29回一気登山大会を開催し、遠くは福島県や埼玉県からも参加者があり、エントリー者数は2988人で菜の花やたんぽぽ、明るい日差しと桜の花も舞い散る中、笑顔と明るい笑い声が鶴見山中に響き渡り無事終了することが出来ました。

いつも思うのですが行政や営利団体が主導するイベントではなくすべての方々がボランティアとしてそれを支えていて、皆で作りに出している一気登山大会は日本一のイベントだと思っています。

今後には就きましても村津さんの作り出した一気登山大会を継承し、全国各地から別府にお越しの参加者のおもてなしと自然を守りながらスポーツ観光の推進に努めてまいり所存でございます。長時間の取り留めのない話をお聞きくださり誠にありがとうございました。